

## サンエー・インターと東京スタイル経営統合

# 共同持ち株会社で新成長戦略

サンエー・インター・ナショナルと東京スタイルは1日、経営統合し、共同持ち株会社TSSIホールディングスを設立する。両社はそれぞれ事業会社としての成長戦略を進めながら、インフラや事業運営ノウハウの共有を図り、「新しいビジネスモデルの構築」（三宅正彦サンエー・インター会長、中島芳樹東京スタイル社長）を目指す。TSSIは資本金150億円。

代表取締役会長に三宅サンエー・インター会長、社長に中島東京スタイル社長が就いた。サンエー・インター、東京スタイルは5月27日付で上場を廃止、TSSIが6月1日に東京証券取引所第1部を上場した。

出自が異なる国内の上場アパレルメーカーが経営統合するのは初めて。企業間競争が激化する中で、両社の強みを結合して新たな成長戦略を進める。将来は合併も視野に入れる。直近の連結業績はサンエー・インター

（10年8月期）が売上高100億3300万円（前期比10・3%減）、営業利益8億6200万円（1952・6%増）、東京スタイル（11年2月期）が売上高558億9000万円（7・1%増）、営業利益4億5300万円（7・4%増）。TSSIでは17年2月期に連結売上高3000億円、営業利益300億円を目指す。

昨年から今年にかけて新ブランド・事業開発を積極化している。サンエー・インターは「生活全般への事業領域拡大」（三宅孝彦社長）を進めるため、今春から英国の生活・服飾雑貨主力の「トータルブランド」キヤス・キッドソン」を導入。一方、東京スタイルは昨年からの複数の新ブランドを開発・導入しているほか、M&A（企業の合併・買収）を積極化、今年3月に「レイズセレクトショップ」「ザ・ファースト・ウイメン」を主力とするフィット、5月には

「ローズバッド」を主力とするエレファントとローズバッドを

買収した。それぞれで成長戦略を加速するが、生産や海外事業などでの連携も順次進める。サンエー・インターが東京スタイルの中国自社工場を軸とした生産背景を活用、東京スタイルは自社工場の新設を予定するベトナムを含めて基盤を強化する。海外事業ではサンエー・インターが展開

している「シル・スチュアート」の中国での販売を東京スタイルの現地法人が7月から始める。ネット販売でも連携、6月からサンエー・インターが自社サイトで東京スタイルのブランドの販売を開始した。今後「できることから、具体的な連携を進める」（中島社長）方針だ。